

(1) 複式教育研究会

1. 研究主題

「自ら学びとる授業づくり～ICT の効果的活動を通して～」

2. 研究経過

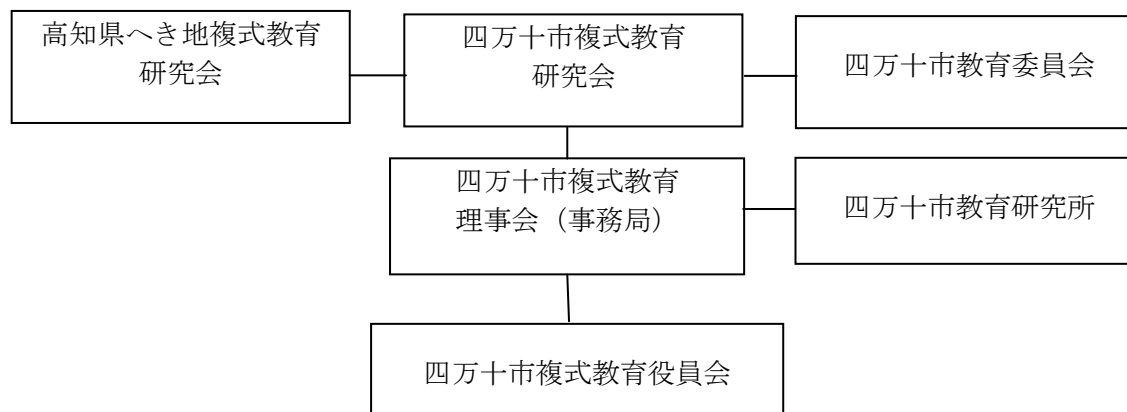
①R4 年度会長・副会長・事務局・会場

会長	中筋小学校
副会長	三原小学校
事務局（研究集録の取りまとめ）	中筋小学校
研究大会の会場校	中筋小学校
研究大会の期日	令和4年10月26日（水）

②役員

会 長	陸野 高俊	中筋小学校 校長	輪 番
副会長	嵐 廣喜	三原小学校 校長	輪 番
事務局	威能 英明	中筋小学校 教頭	輪 番
理 事	柴田 満嗣	下田小学校長	
	門田 典弘	東中筋小学校長	
	池上 みどり	大用小学校長	
	濱口 明大	利岡小学校長	
	石川 真紀	蔵岡小学校長	
	宮川 成也	西土佐小学校長	
	太宰 三和	八束小学校長	
	嵐 廣喜	三原小学校長	

③研究組織



④年間予定

第1回 理事会	令和2年度から中止
組織総会	令和2年度から中止
指導案検討会→会場校で	令和2年度から会場校のみで実施
研究大会：中筋集会	令和4年10月26日(水)午後
第2回 理事会	令和2年度から中止

⑤会則

四万十市 複式教育研究会・新会則（R3年度～）

- 第1条 この会は、「四万十市複式教育研究会」と称する。
- 第2条 この会は、複式指導の研究並びに複式校の学力の向上を図ることを目的とする。
- 第3条 この会は、四万十市の複式校に勤務する教職員とこの趣旨に賛同する者をもって組織する。
- 第4条 この会は、目的達成のため、次の事業を行う。
- （1） 研究大会

- 第5条 この会の組織として次の部を置く。

◎ 校長部会（理事会） ◎ 事務局

- 第6条 この会に次の役員を置く。任期は総会から次年度総会までの1ヶ年とする。

役 員 名	人 数
会 長	1 名
副 会 長	1 名
理 事	各 校 1 名
研 究 部 長	1 名
事 務 局	1 名

- 第7条 役員の任務は次の通りとする。

- （1） 会長は会を代表する。
- （2） 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはこれを代行する。
- （3） 理事は各校を代表する。
- （4） 研究部長は会の推進を担う。
- （5） 事務局は庶務全般にあたる。

- 第8条 役員の選出は次の通りとする。

- （1） 会長・副会長・事務局は輪番とする。
- （2） 理事は、原則として各学校の校長が引き受けるものとする。

内 規

- 本複式教育研究会に、三原村立三原小学校も組織の一員として加盟する。
- 本研究会の研究大会が三原小学校で開催される年度には、研究大会にかかわる費用を三原村教育委員会が予算措置する。

⑥役員の輪番予定

年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
会長	蕨岡小	大用小	中筋小	三原小	下田小	東中筋小	利岡小	八束小
事務局	蕨岡小	大用小	中筋小	三原小	下田小	東中筋小	利岡小	八束小
会場校	蕨岡小	大用小	中筋小	三原小	下田小	東中筋小	利岡小	八束小
副会長	大用小	中筋小	三原小	下田小	東中筋小	利岡小	八束小	蕨岡小

大用小→中筋小→三原小→下田小→東中筋小→利岡小→八束小→蕨岡小→大用小…（固定順）
 ※副会長は次年度の担当校の校長とする（R2 年度から）

3. 研究大会（中筋大会）

日 時 令和 4 年 10 月 26 日（水） 14：20～16：45
 会 場 四万十市立中筋小学校 高知県四万十市有岡 9 3 1 番地
 日 程

14:00	14:20	15:05	15:20	15:35	16:35	16:45
受 付	公開授業（6 校時） （各教室）	休 憩	開 会 基 調 提 案	講 演 （体育館）	閉 会	

授 業

学級名	教科名	単 元 名	授 業 者	児童数
1 年	算数	1 年「かたちあそび」	岡崎 美和	1 年 3 名
2・3 年	算数	2 年「新しい計算を考えよう」 3 年「まるい形を調べよう」	上岡 史佳	2 年 7 名 3 年 3 名
4 年	算数	4 年「計算のやくそくを調べよう」	野村 拓子	4 年 7 名
5 年	算数	5 年「分数のたし算、ひき算を広げよう」	威能 英明	5 年 6 名
6 年	算数	6 年「比例の関係をくわしく調べよう」	安田 政司	6 年 7 名

講 演 講師 松山 起也 先生（高知大学教育学部附属小学校教諭）
 演題 「子どもが自ら学びを進めていくこれからの授業とは」

4. 今年度の成果と課題

- 「子どもが自ら学びとる授業づくり」のために、日常生活に関連した課題を設定したり、学習リーダーを活用した授業展開を設定することができた。
- 副題である ICT の効果的活用について、ヒントカードやふりかえりなど参観者に本校の取組を見ていただく機会となった。
- 講演の内容も分かりやすく、「教師ができる 5 つのワザ」など、実際に参観者が子どもの立場になり示していただくことで、子どもたちが問いをもち主体的になる授業づくりについて、実感とともにご教授いただいた。
- 情報機器は時に不具合を生じることがある。そのことも踏まえながら、授業展開等を考えていく必要がある。
- 子どもたちを信じて任せきることを基本とするとともに、教師がどこで介入し進めていくかなどについても研究し、ゴールとなる「自ら学びとる授業」に向けて実践を積み重ねていく。